

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10319

研究課題名（和文）進行性疾患の患者と家族の食に関する苦悩への心理社会的アプローチと多職種連携ケア

研究課題名（英文）Psychosocial approach and multimodal care by a multidisciplinary team for eating-related distress in patients with progressive disease and their families

研究代表者

天野 晃滋（Amano, Koji）

大阪大学・医学部附属病院・特任講師（常勤）

研究者番号：40573093

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：進行がん患者とその家族を対象とする多職種ケアの効果判定のために、患者と家族それぞれの「食に関する苦悩の評価尺度」を開発した。さらに患者の「食事摂取量」と「食に影響する症状」「食に関する苦悩」「がん悪液質関連quality of life」との関連を調査した。また、多職種ケアの実践を普及するため、全国のがん診療連携拠点病院の緩和ケアに従事する医療者を対象に、多職種ケアに関する認識と実践の調査を実施した。これらの知見は、今後の進行がん患者とその家族を対象とする多職種ケアの開発に有用である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

進行がん患者における食事摂取量と食に影響する症状、食に関する苦悩、がん悪液質関連quality of lifeの関連をみることで、どのような患者にどのような症状と苦悩があるかがみえてくる。同時に患者の家族の苦悩もみえてくる。近年、がん患者数は年々増加しており、がん治療の開発も日進月歩であるが、患者と家族に対する支持・緩和医療はまだ未確立である。そのため多職種が連携した多職種ケアの開発が求められており、我々の一連の研究の成果はその開発に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：To determine the effectiveness of multimodal care provided by a multidisciplinary team for patients with advanced cancer and their families, we developed a scale to assess eating-related distress in patients and their families, respectively. Moreover, we investigated the relationship between patients' food intake and nutrition impact symptoms, eating-related distress, and cancer cachexia-related quality of life. Furthermore, in order to disseminate the practice of multimodal care, a survey of perception and practice of multimodal care was conducted among healthcare providers engaged in palliative care at designated cancer hospitals across Japan. These findings would be useful for the future development of multimodal care for patients with advanced cancer and their families.

研究分野：支持緩和医療

キーワード：サポーターシップケア 緩和ケア がん悪液質 食に影響する症状 食に関する苦悩 がん悪液質関連QOL

1. 研究開始当初の背景

進行がん患者は、がん悪液質だけでなく腫瘍そのものの影響・がん治療の副作用なども加わり「食べないといけないが食べられない」「食べるようにしているが痩せてしまう」というような食欲不振・体重減少を主因とする食に関することで苦悩し、生活をともにする家族も患者とは異なる苦悩を有する。このような患者と家族の食に関する苦悩は、それぞれの quality of life (QOL)の低下に直結する。そこで「病気の進行で食べられなくなることによる患者と家族の苦悩をいかに和らげられるか」という学術的「問い」が生じた。

近年のがん悪液質治療の主軸は nutrition impact symptom (NIS) の緩和と栄養サポート・エクササイズであり、さらに食欲の増進・骨格筋の増加・増強などの作用を有する新薬の開発にも力が注がれている。しかしがん悪液質治療には限界があり、特に進行がん患者と家族では食に関する苦悩の緩和を含めた全人的で各専門領域を統合したケアが必要である。これらをふまえ、我々は進行がん患者と家族の食に関する苦悩のような心理社会的苦痛における緩和ケア・サポート型ケア・栄養ケアを統合した多職種（医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・公認心理師・臨床心理士など）によるケアの重要性を指摘するとともに、一つのモデルを提示した。また、並行して患者と家族の食に関する苦悩の暫定版評価尺度を開発した。

2. 研究の目的

がん悪液質の観点からの進行がん患者と家族の心理社会的苦痛のケアは世界的に確立されておらず、患者と家族の食に関する苦悩への多職種による統合ケアの開発は世界的に初めての試みで、本研究では以下を目的とした。

- ・進行がん患者と家族の食に関する苦悩の多職種による統合ケアを開発すること
- ・クラスターランダム化比較試験にて新規開発した統合ケアの効果を検証すること

3. 研究の方法

進行がん患者と家族の食に関する苦悩の評価尺度開発の過程で、それぞれの苦悩における因子構造が明らかになった。その結果をふまえ、我々が提示した多職種による統合ケアのモデルに基づき、具体的なケアの手引書（医療者用と患者・家族用）を作成し、つぎに我々が開発した患者と家族の食に関する苦悩の評価尺度を用い、クラスターランダム化比較試験で新規開発した多職種による統合ケア群(介入群)と従来ケア群(対照群)を比較しその効果を検証することを計画した。

4. 研究成果

我々は、進行がん患者と家族の食に関する苦悩における因子構造をふまえ、多職種による統合ケアのモデルとして以下の9項目を提示した。

- 身体症状の緩和
- 精神症状の緩和
- 診療ガイドラインに基づいた集学的治療の実践
- 患者・家族への集学的治療励行の呼びかけ
- 患者・家族へのがん悪液質に関する適切な情報提供

- 患者・家族へのがん悪液質に関する教育
- 患者・家族の心理的適応の援助
- 患者・家族のコーピングの援助
- 終末期の話し合い (End-of-Life discussion) の開始

また、その実施のためのケアの手引書（医療者用と患者・家族用）を作成するために、多職種（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・公認心理師・社会福祉士）のモデルに対する認識についての全国調査を実施した。統合ケアの9項目に対する多職種の認識は、すべての職種で統合ケアにおける9項目は重要性であると考えられていたが、職種により実施状況は様々で、統合ケアにおける職種間での役割の違いが明らかになった。さらに統合ケアの効果の評価項目の一つとして、患者と家族の食に関する苦悩の本格的な評価尺度を完成させた。同時に患者のNISと食事摂取とQOLの関連を調査し、これらも統合ケアの評価項目に含めるべきであることを示した。しかしCOVID-19による世界的パンデミックの影響もあり、医療者用と患者・家族用のケアの手引書を作成するに至らず、クラスターランダム化比較試験の実施もできなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 6件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Amano K, Morita T, Miura T, Mori N, Tatara R, Kessoku T, et al. | 4. 巻 14 (1) |
| 2. 論文標題 Development and validation of questionnaires for eating-related distress among advanced cancer patients and families. | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 J Cachexia Sarcopenia Muscle | 6. 最初と最後の頁 310-325 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jcsm.13133 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Abe A, Amano K, Morita T, Miura T, Mori N, Tatara R, et al. | 4. 巻 3 (1) |
| 2. 論文標題 Beliefs and perceptions about parenteral nutrition and hydration by advanced cancer patients. | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Palliat Med Rep | 6. 最初と最後の頁 132-139 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/pmr.2022.0009 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Amano K, Baracos V, Morita T, Miura T, Mori N, Tatara R, et al. | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 The impact of cachexia on dietary intakes, symptoms, and quality of life in advanced cancer. | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 JCSM Rapid Communications | 6. 最初と最後の頁 162-170 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rco2.61 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Otani H, Amano K, Morita T, Miura T, Mori N, Tatara R, et al. | 4. 巻 31 (2) |
| 2. 論文標題 Impact of taste/smell disturbances on dietary intakes and cachexia-related quality of life in patients with advanced cancer. | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Support Care Cancer | 6. 最初と最後の頁 141 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-023-07598-6 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Amano K, Koshimoto S, Hopkinson JB, Baracos VE, Mori N, Morita T, et al. | 4. 巻 3 (1) |
| 2. 論文標題 Perspectives of health care professionals on multimodal interventions for cancer cachexia. | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Palliat Med Rep | 6. 最初と最後の頁 244-254 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/pmr.2022.0045 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 Koshimoto S, Amano K, Mori N, Oyamada S, Arakawa S, Ishiki H, et al. | 4. 巻 31 (2) |
| 2. 論文標題 Perspectives of registered dietitians and factors associated with their personal accomplishment in the management of cancer cachexia. | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Support Care Cancer | 6. 最初と最後の頁 124 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-023-07593-x | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 Koji Amano | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 The impact of cachexia on dietary intakes, symptoms, and quality of life in advanced cancer | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 JCSM Rapid Communications | 6. 最初と最後の頁 1-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rco2.61 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 小山田 隼佑 (Oyamada Shunsuke) (00774085) | 特定非営利活動法人 JORTC・データセンター・生物統計家 (92670) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|--|---|----|
| 研究 分 担 者 | 宮下 光令 (Miyashita Mitsunori) (90301142) | 東北大学・医学系研究科・教授 (11301) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |